

平成3年6月2日

区内在住外国人(7ヵ国・25名)を招いて

## 『日本武道への招待』開催

6月2日(日)午前10時から午後4時まで、豊島区立雑司が谷体育館(雑司が谷3-1-7・千登世橋教育文化センター内)において、区内在住の外国人25名を招いて『日本武道への招待』が開かれた。主催は豊島区教育委員会。協力：豊島区柔道連盟・剣道連盟・なぎなた連盟。

これは、柔道・剣道・なぎなたなど日本古来の武道を通して、日本のスポーツ文化を紹介するとともに、区の体育施設の利用PRを目的として開かれたもの。

参加者は、一般公募で集まった7ヵ国(中国・韓国・米国・英国・カナダ・シンガポール・イスラエル)25名の外国人区民。

午前中は、オリンピックや世界選手権などでもお馴染みの柔道を紹介。豊島区柔道連盟の有段者による指導のもと、参加者たちは、受身に始まって、寝技、投げ技にも挑戦。

最後は、柔道六段の講師を小さな女性が一本背負いで投げ飛ばし、「これが柔道の極意」というオチもついた。

昼食後には、温水プールなど付属施設を、館長らの案内で見学。区のスポーツ施設の存在すら知らなかった『(外国人)区民』たちは、「ぜひお気軽にご利用ください」と言われて皆びっくり。

その後も、剣道・なぎなたの講習を受けた参加者たちは、初めて間近で見る日本武道の迫力に、丸一日、目を丸くしていた。

豊島区の外国人登録者数は、現在約14500人。一時の激増もようやく収まり、これからは、地域に定着しつつある外国人区民といかに接し、交流を深めていくかが、区の国際化対策の要となる。

区施設のPRと、日本の伝統文化の紹介を兼ねた今回の試みは、まずは大成功と言えるだろう。

問合せ 千登世橋教育文化センター内 体育課管理係長